

# 市長の まちづくりメッセージ

市役所では、毎月の初日に「市長のまちづくりメッセージ」を放送しています。市民の皆さんと『共創・協働のまちづくり』を進めていくため、その一部を掲載します。



## 「おっぱい都市・ひかり」 について

光市では、本年3月に「おっぱい都市基本構想」を策定しました。現在、この構想に基づいて、未来を担う子どもたちが父母や地域の愛情に包まれて生き生きと育つまちづくりを目指しています。

特に、今年度から他市に先駆け保育園・幼稚園同時入所の第2子以降無料化をはじめ、さまざまな子育て支援対策を行っています。

こうした中、先月10日には16回目の「おっぱいまつり」が多くのボランティアの協力のもと、盛会裏に開催されました。本年度はメイン事業の一つとして、子どもの誕生を喜び、感動した気持ちを



カードにした「みんなでハッピースターinおっぱいまつり」を実施しました。

このカードは「忘れない誕生の喜び、伝えたい君への想い」を主題に、お父さんお母さんから我が子への想いをつづっていたいたもの。いずれ本としてまとめ、地域全体で子育てを支援するとともに、全国へ情報発信し「おっぱい都市宣言のまち・ひかり」を今まで以上にPRしていきたいと考えています。

「生まれてきてくれてありがとう」という誕生の喜び、感謝の気持ちは、すべての親がお持ちのことと思います。が、子どもの成長とともに、いつの間にかそのことを忘れてがちになってしまいます。

私は、この「子どもの誕生カード」を通じて、子どもへの愛情を注ぐ意識を醸成するとともに、常に親の思いを伝えることにより、「おっぱい都市基本構想」が目指す、すべての子どもたちが心温かい人へと成長できる環境づくりを進めていきたいと考えています。

職員の皆さんも「おっぱい都市宣言」の趣旨をしっかりと

認識し、行政の果たすべき役割を着実に実践して「みつめだきしめ かたりあう」心温かい人が育つまち「ひかり」を市民とともに創りあげていきましょう。

## 「柔軟な物事の捉え方・ 考え方」について

私は市長に就任以来、一貫して「改革・刷新」を市政推進の柱に掲げ、「改革に終わりは無い」という確固たる信念のもと、職員の皆さんと行財政改革や構造改革を実行してきました。改革にあたり私が常に意識しているのは柔軟に物事を捉え、考える、また対処することです。

同じ物事や事柄を見ても、物事の捉え方や考え方によって、その後の対応に違いが出て、全く違う結果となることがあります。例えばクレームがその一つです。

クレームを単に「苦情」として捉えるか、それとも市への「期待の表れ」や「改善点の指摘」として捉え、業務の改善につなげようと対応するかによって、結果が大きく違ってくることは、これまで



の経験から思い当たることもあると思います。

さらに、柔軟に物事を捉え考えるには、職員の皆さん一人ひとりが、従来の固定観念や常識にとらわれず、常に疑問を持つことも重要です。

改革とは「改め、変えること」です。

職員の皆さんには、常に意識して視野を広く高く持ち、市民の目線でさまざまな事柄に疑問を持ち、物事を解決に導くことが出来るよう努力するとともに、これまでの既成概念や前例を踏襲することなく、新しい発想や着眼点で、より良いまちづくりが出来るよう、物事を柔軟に捉え、考える力を備えて、改革を続けてください。